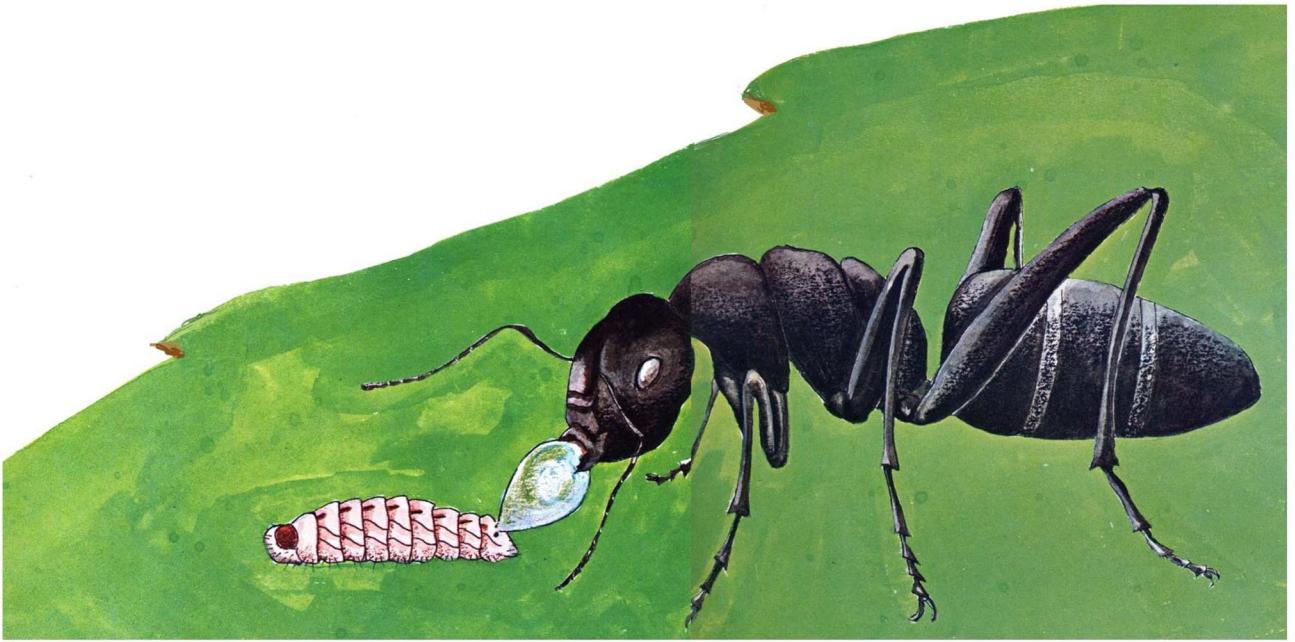


クロシジミと

クロオオアリのビボ



(絵と文 藤井 醇)

クロシジミと

クロオオアリのビボ



絵とおはなし ふじい あつし

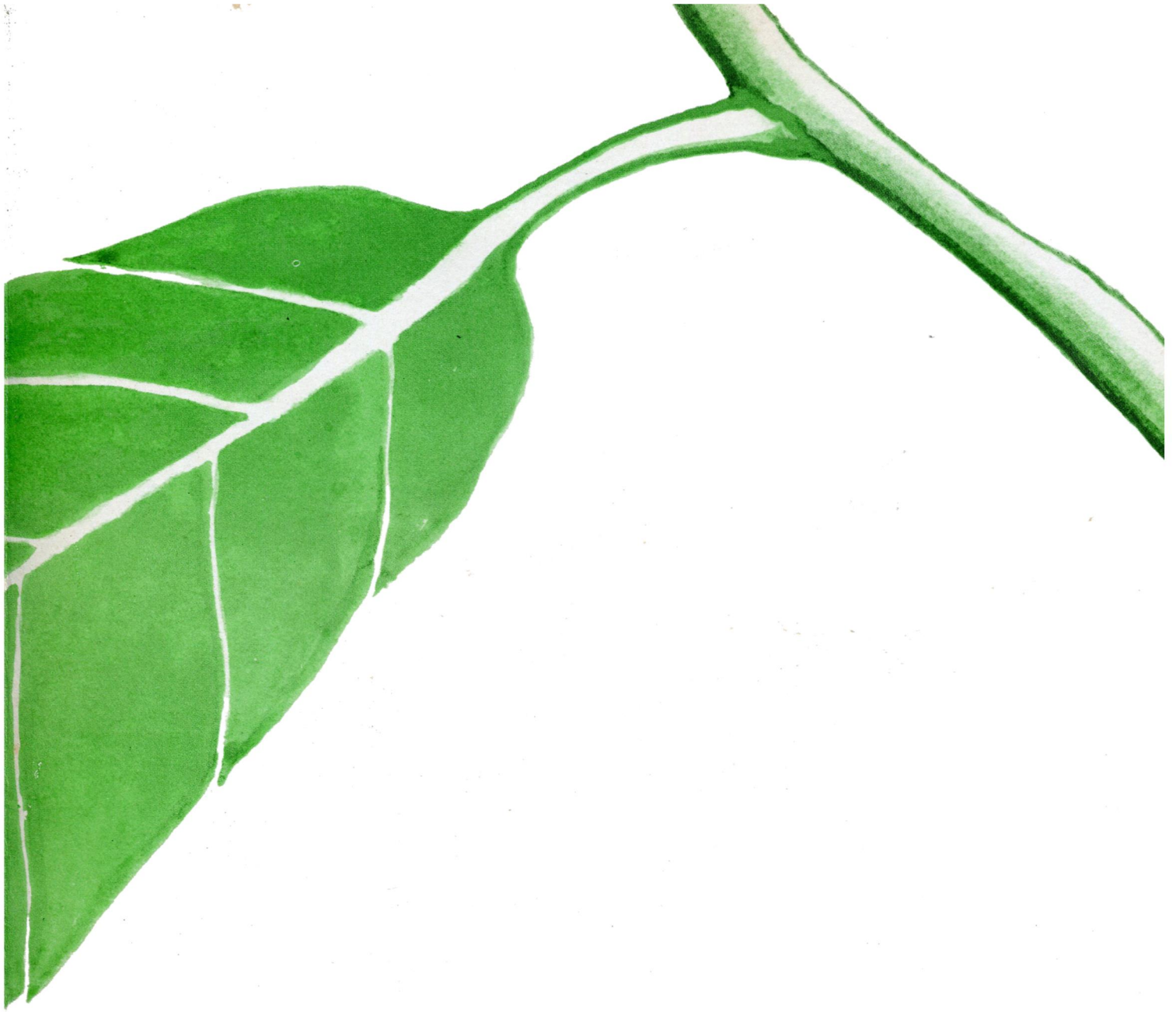
ありの びぼは、  
まいにち こならの えだの ありまきの ところへ、  
あまい みつを もらいに かよっていました。





そんな あるひ、びぼは はっぱの うえで  
みなれない へんな かたちの むしを みつけました。





びぼは しょっかくで ちよんと つついてみました。

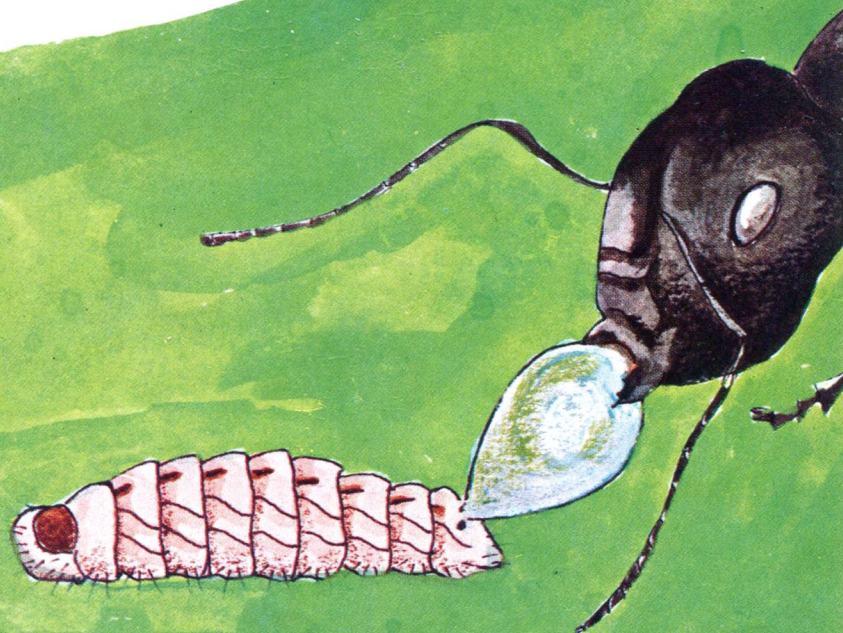
すると どうでしょう

つついた あたりが きらっと ひかって

みるみるうちに ふうせんのように ふくらみました。

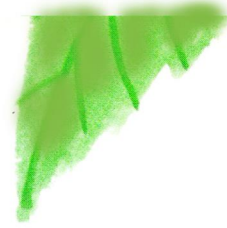
びぼは ためしに ちょっと なめてみました。

それは すばらしく おいしい みつでした。







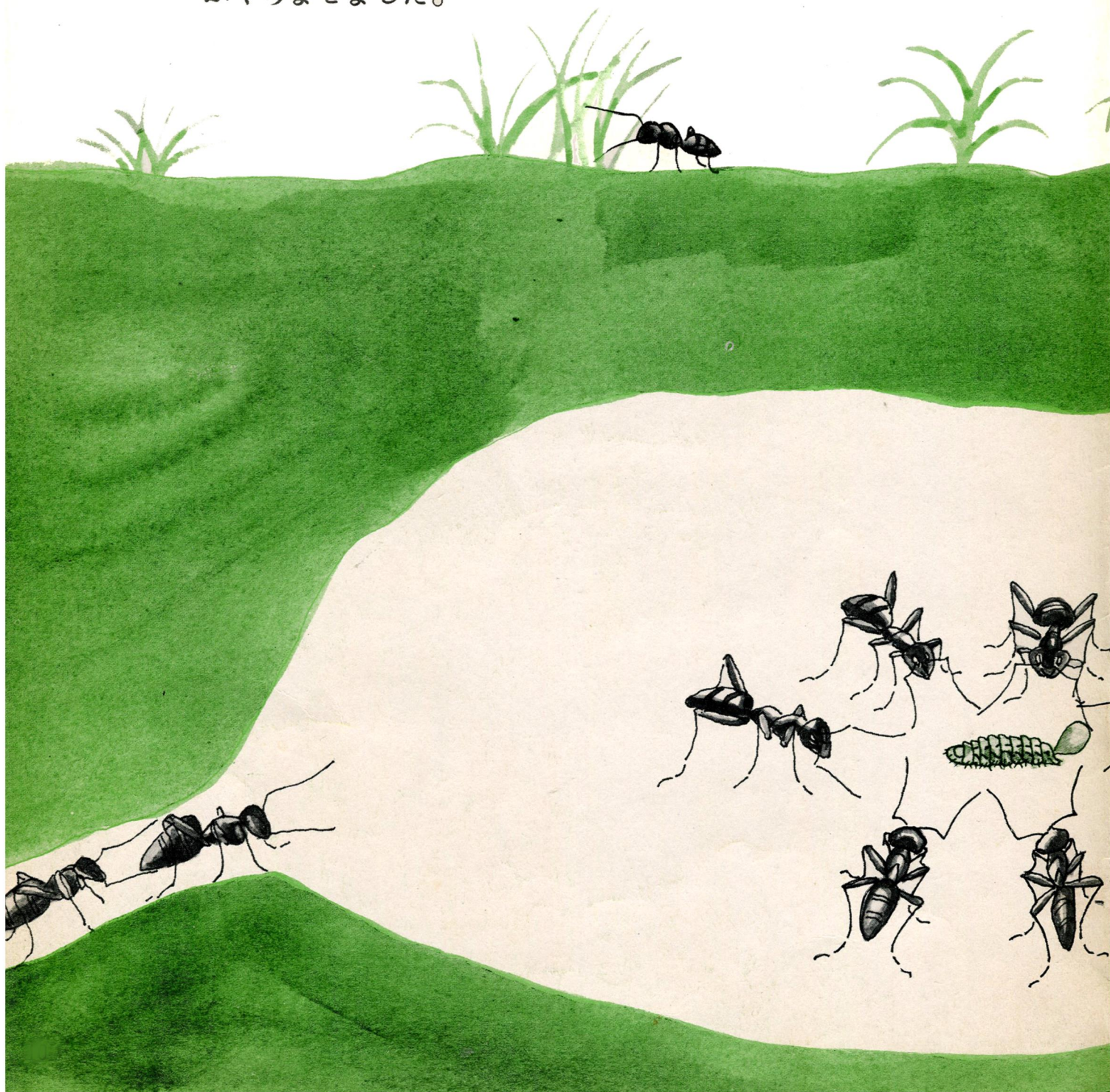


「ほかの ありが みつけたら、きっと つれていって  
しまふにちがいない」  
びぼは じぶんの すへ その むしを つれてかえる  
ことにしました。



すにかえると、なかまのありたちがあつまってきて  
ふしぎそうなかおをしました。

「すてきな おきやくさまだよ」と びぼが はなしを  
していると、その むしが みつの ふうせんを  
ふくらませました。

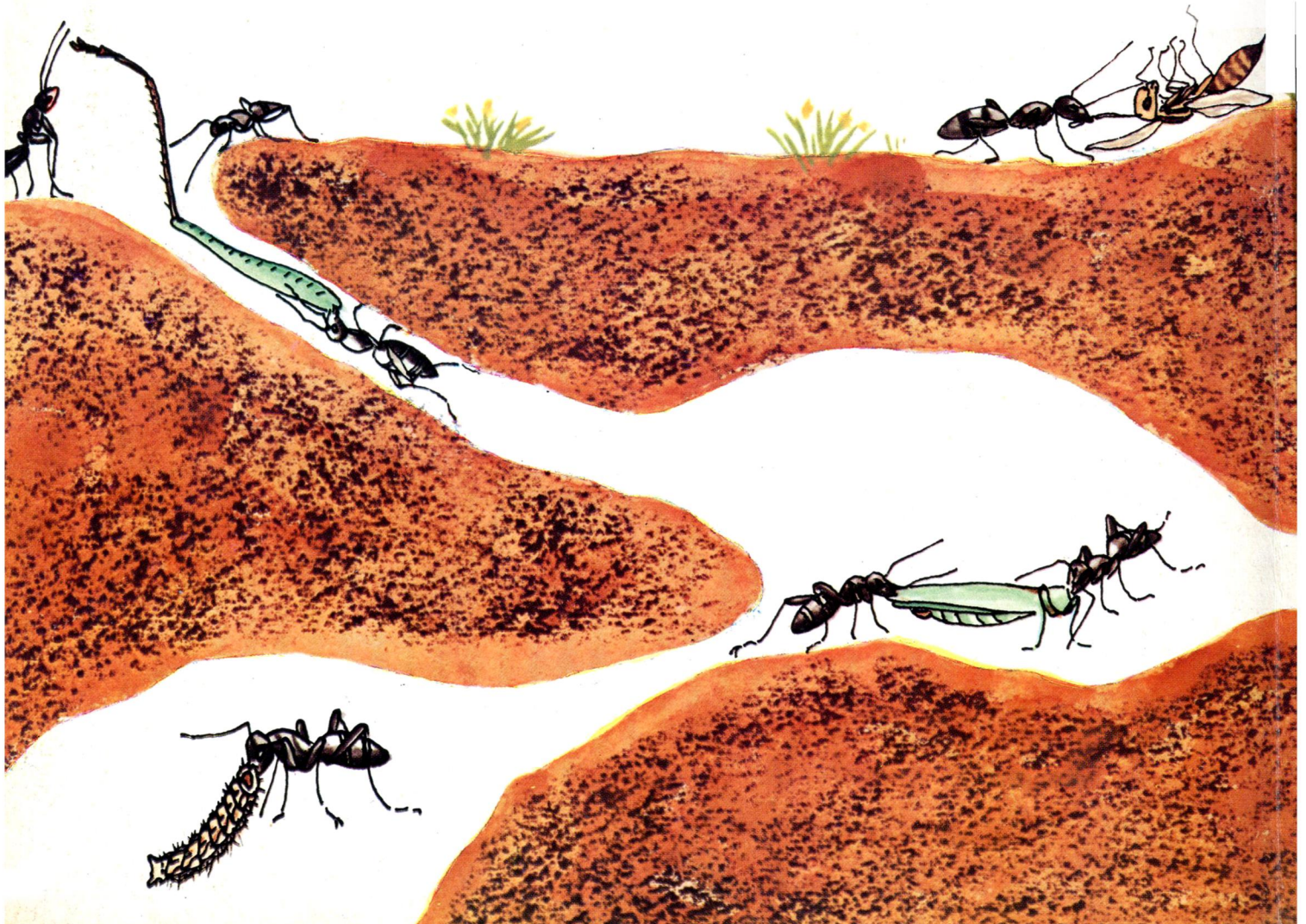


なかまの ありたちは、  
かわる がわる みつの ふうせんを なめて、  
「これは すてきな おきやくさまだ」  
「みんなで たいせつにしよう」  
と いいました。



びぼと なかまの ありたちは、  
まいにち ごちそうを あつめて  
ありの ようちゅうたちと おなじように  
おきやくさまにも くちうつしで ごちそうを あげて  
たいせつに そだてました。

あきの おわりごろには おきやくさまは  
ずいぶん おおきくなりました。





さむい ふゆが きました。



びぼたちは すの なかで、あたたかい はるが  
くるのを まつより しかたがありませんでした。

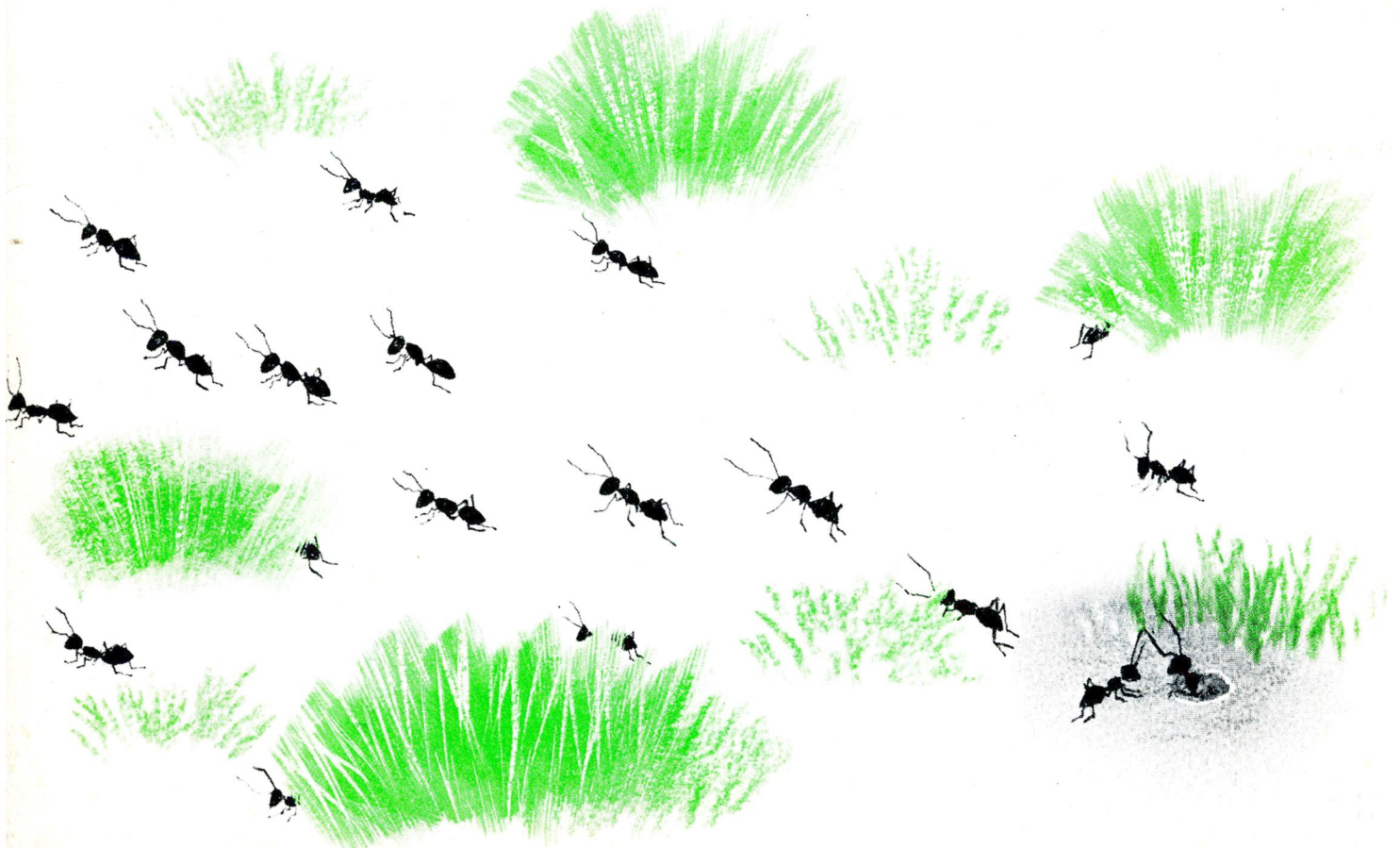






やがて ふゆも すぎ あたたかい はるになりました。  
びぼたちは げんきに すから はいだして、はなの  
さいている くさむらへ、ごちそうを さがしに  
でかけました。

でも、びぼには ひとつ しんぱいごとが あります。  
それは おきやくさまが ごちそうを たべなくなって  
しまったからです。



おきやくさまが ごちそうを たべなくなって  
よ  
4かめのことです。

おきやくさまは、しろっぼい だるまさんの  
ような かたちにかわってしまいました。

びぼたちは びっくりぎょうてん。







その だるまさんは、ひが たつにつれて すこしずつ くろっぽく  
なってきました。そして あるひ、ぴしっと ちいさな おとを たてて  
われめが できました。



やがて、はねの ちぢれた みにくい ちょうが うまれました。  
みにくい ちょうは でぐちに むかって  
いそいで あるきはじめました。

びぼたちは おいかけました。

そして みんなが そとへ 出たときは、

すでに みにくい ちょうは はねが すっかり のびて

りっぱな ちょうになっていました。







しばらく はねを やすめていた ちょうは、  
やがて ひらひらと たかい そらへ まいあがって  
みえなくなりました。

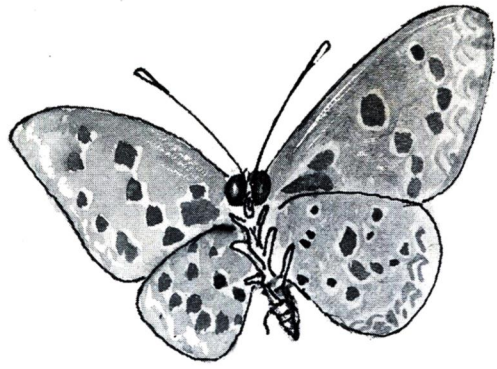




びぼは それからも まいにち ありまきの ところへ  
みつを もらいに かよっていました。

そんな あるひ、びぼは こならのきの てっぺんに  
とまっている ちょうを みつけ、おおいそぎで  
のぼっていきました。

すると、ちょうは ひらりと そらへ まいあがって  
「ありさん、このあいだは ありがとう。おれいに  
きの てっぺんに たまごを うんで おきました。  
ようちゅうに なったら、また かわいがってやって  
くださいね」と 言って、とんでいってしまいました。





びぼは おおいそぎで てっぺんに のぼってみました。

すると そこには、ちょうが いったとおり

きれいな たまごが みつつ ありました。

びぼは その たまごが かえるのを くびを ながくして

待ちました。



# クロシジミと

## クロオオアリのビボ

(絵と文 藤井 醇)

このお話は、クロシジミとクロオオアリが共生している  
事実にもとづいたおはなしです。

クロオオアリの方は私たちの周辺にもいるアリで珍しく  
ありませんが、クロシジミの方は里山、雑木林などが、  
あるような所でないといいませんし、最近は特に減ってき  
ていて、なかなか見られません。

自然を大切にしないと、私たちの周辺から、山野草も、  
虫も、鳥もいない住むにくい世の中になってしまいます  
そうならぬよう、自然に温かな眼差しを向け、大切に  
していかなないと、すべて我々自身にはねかえってきます。

クロシジミとクロオオアリのビボ



パソコン画 Afujii